

令和5年度 第4回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日時 令和6年（2024年）2月13日（火）10時00分～11時30分
- 2 場所 白馬村ふれあいセンター学習室
- 3 出席者 委員12名（欠席 笹川委員、富原委員）
その他の出席者

- ・中島秀明（高校教育課主幹指導主事）
- ・有坂清明（高校教育課主任指導主事）
- ・小谷村副村長、小谷村教育課長
- ・白馬山麓事務組合局長補佐、主査
- ・白馬高校魅力化コーディネーター
- ・白馬高等学校教頭、事務長



4 次第

(1) 開会の言葉（藤森要白馬高校教頭）

(2) 長野県教育委員会挨拶（中島秀明高校教育課主幹指導主事）

- 前期入試が終わり、白馬高校でもたくさんの中学生が受検してくれた。後期入試でもさらに大勢の中学生の皆さんが出願されることを願っている。
- 今年度は早くからワーキンググループを立ち上げて、学校の魅力化とともに県内外での生徒募集にご尽力いただき、多くの中学生や保護者に早い段階から白馬高校に興味関心を持っていただけた。
- 本日も実質的な議論をお願いしたい。

(3) 学校長挨拶（関正浩白馬高等学校長）

- 今年度最後の協議会となった。皆様には年度当初から献身的で熱心なご支援をいただき心から感謝申し上げます。
- 先週9日に前期入試で37人の合格発表をした。国際観光科では募集人員30人を上回る42人の志願者があり明るい兆しが見えてきたところだが、一方で普通科を含めた全体としては厳しい状況が続いている。当地区全体で前年度に比べ中学卒業生数が27人減少しており、それが今の本校にとっては非常に大きな影響を及ぼしている。学校の一層の魅力化・特色化に力を入れて、地域や県外の皆さんの幅広いニーズに応えられるよう取り組んでいきたい。
- 昨日松本で、中信地区の公立私立の高校が一堂に会して探究学習の発表交流会を行った。5つの分科会があり、本校からは「暮らしと健康」という第2分科会で、前回の協議会でも紹介した大系線応援の活動を発表し、スポンサーの長野銀行様から企業賞をいただくことができた。
- このように、生徒たちが白馬高校の3年間でしっかりと育っていることを地元の小中学生や保護者に良く知っていただき、今後の募集につなげたい。

(4) 報告事項

*学校より現状報告 <関校長>

1 募集活動について

- 資料4ページから前回の協議会以降の学校の取り組みを写真入りで掲載している。ゼロカーボンミーティングでの断熱改修紹介、マレーシアから来た中高生との交流、県庁での北アルプス山麓ブランドの販売実習等々、地域と繋がる活動をいくつもやってきた。
- 8ページからは、今年度の重点目標であった、生徒募集の強化と学習や生活面での生徒支援、学校の魅力化についてまとめを載せてある。
- 県外の生徒募集では、全体で99人の中学生と直接話をし、うち53人が中学3年生で、最終的に26人が志願承認手続きを取った。オンラインでの説明機会も大事だが、実際に学校へ足を運んでいただくことが重要と考えることから、対面開催の説明会にさらに力を入れたい。
- 資料9ページからは重点目標実現に向けた取り組みの振り返りである。◎と○はほぼ出来たもの。
●は課題を残したものであり、公営塾の活用が課題である。
- 地域と連携した学びでは、デュアル実習や就労体験、白馬東急ホテル料理長による特別調理実習、小谷村で初めてやらせていただいた高校生ホテルなど、しっかりと活動できた。
- 16ページに進路状況をまとめている。今年度は41人が卒業見込みだが、現在のところ10人が四

年制大学に合格している。結果待ちが数人いる。公立の都留文科大学に1人合格したのもうれしいニュースだ。就職は8人で半数の4人がホテル関係へ進む。高校での学びが生きた形だ。

- これは情報提供としてだが、令和6年度に文部科学省がDX加速化推進事業をおこなう。1校あたり1,000万円の経費を支援してデジタル分野の人材育成強化を図るというもので、本校も応募しようと考えている。採択後の話ではあるが、最新のデジタル機器を使って教えることのできる人材が必要となるので、その部分での支援を運営協議会の委員の皆さんにお願いしたい。

*白馬山麓事務組合より現状報告<松澤局長>

- 全国募集についてまとめたものを17ページに載せてある。学校独自の説明会と地域みらい留学の対面とオンラインの説明会を実施した。今年の新しい取り組みとしては、制作したプロモーションビデオを活用したことと東京在住の卒業生に体験談を話してもらったことだ。特に卒業生の話には中学生も保護者も興味を持っていただけた。
- 新年度は寮生活をする生徒が増える見通しであり、令和6年度には寮と下宿を組み合わせた「寮下宿」1施設を開所する予定である。
- 令和7年度にはさらに施設が不足する見通しであり、受け入れ体制について令和6年度第1回の運営協議会で検討をお願いしたい。

(報告事項について質問なし)

(5) 審議事項

<白戸議長>

- 本日は今年度最後の協議会であり、学校および事務組合からの報告を踏まえて協議会としての総括を行いたい。令和4年度第4回の協議会で、全国募集と将来構想という2つのワーキンググループ(※以下WGと略記)を作り、その後それぞれで活動してきたので、初めに各WGの総括をお願いする。

<出口委員>

- 将来構想WGでは、中長期の目標として生徒も教員もウェルビーイングの学校にしていこうということで行くつかの取り組みについて考えた。個人的な反省になるが、ゴールを何年後かに見通してロードマップをしっかり描く必要があると思う。前回の会議で出された単位制導入のように大きな転換が話題に出たのは良かった。

<武田委員>

- 美麻では中学3年間、生徒の自ら学びたい・探究したいと思うことを地域の人が協力して進めている。これを白馬高校に入っても継続できるようになるといい。また、交通の面では、美麻からは大町よりも白馬に出やすいという点があり、通学の足の確保について村に検討をお願いしたい。

<出口委員>

- ポンチ絵の中には中高一貫ということもうたわれていたが、小谷中として何かできないかと考え、今年中学校の全部の授業を公開して白馬高校の先生方に授業参観していただいた。その後研修という形でポッチャ大会を行い、懇親を深めた。両校の先生方が互いを知ることによって関係性も高まってきた。白馬フォーラムを見たが、高校生のプレゼンや司会生徒の進行も素晴らしく、中学生にとって勉強になるので、来年は小谷中学校の2年生が参加して高校生との交流を深めたい。

<草本委員>

- DXの話があったが、背景はどういった感じなのか。

<関校長>

- 全国の高校を対象とした文部科学省の事業で1月末に正式に通知が来た。本校でもちょうどデジタル機器を活用したコワーキングスペースの設置を構想していたところであり、DXハイスクールにも申請することにした。うまく採択されれば、地域の人にもどんどん学校へ入ってきてもらい、その施設を活用した学びと一緒に展開できたらいいと考えている。教員研修や生徒向け授業を指導していただける専門人材確保に協議会としてご協力いただきたい。

<草本委員>

- 今申請して、実際に整備できるのはいつ頃か。

<関校長>

○単年度予算なので、令和6年度内に整備実施することになる。

<草本委員>

○教員研修ができる人材に関して、「白馬工作室」というのがスノーピークのすぐ西側にあり、3Dプリンターや大きな板のカッターなどを備えて、もともと木工アーティストが使われていた工房をエンジニアで山岳ガイドなどもやられている方が活動している。私の学校の生徒もサマースクールでお世話になった。その方ならいいかもしれない。

○白馬インターナショナルスクールでも次年度から高校課程がスタートするので、カリキュラムをいま整えている。夏からエンジニアリングの専門教員が入ってくるので、お手伝いできることがあれば協力したい。アルパインエンジニアリングといって山岳環境の中で必要なエンジニアリングを学ぶコースを作っていくので、山岳の授業を開設する白馬高校と一緒にやれば面白いのでちょうど相談したいと考えていたところだった。

<中島主幹指導主事>

○地域にリソースがあって指導者がおられたり道具があるなら、そういうものを共有したり、学校にあるなら地域の人と一緒に学び合ったり、高校生が教えたりとか、共に学び合うことがとても大事だ。事業が採択されるかどうかは現時点では未定だが、草本委員のおっしゃったような新たな学びの場を白馬高校と共有するのはとても良いことだ。大自然の山とエンジニアリング、DX、生成AIなどと結びつけて考えていくことは非常にいいことだ。

<白戸議長>

○大学や高校でも新しいコンテンツがどんどん導入されてきているが、大事なことはそれに使われないようにすることだ。今回の予算の申請においても、白馬高校の教育にふさわしい形でどういうふうにするかをまず考え、今の議論に出ているとおり、地域と相互に協力し合うようなデザインを描いてほしい。DXはあくまでもツールとして、これを使いこなして白馬高校にふさわしい人材を育てることが大事だ。

○連携型中高一貫についてはこれからの課題になるが、これについて委員や県教委の方からコメントがあればお願いしたい。

<丸山委員>

○可能なら積極的にそういう方向に進めて欲しいが、高いハードルがあるのか、実際のところ可能なのかを聞きたい。

<中島主幹指導主事>

○連携型中高一貫校というのは、設置者の異なる中学校と高校が、教育課程の編成や教員、生徒間の交流について連携して教育を行うということだ。6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できることにより、教育の多様化が推進されたり、生徒一人一人の個性をより重視する教育をめざしている。長野県では、併設型が2校(2.5%)、連携型はない。各都道府県の平均は、併設型が1.9校、連携型は1.6校である。割合の上位の県としては、併設型が和歌山県で5校(13.9%)、連携型では福井県で3校(12.0%)という状況で、たくさんあるわけではない。中高一貫校では、中学から高校にかけての選抜試験において独自の方法をとることができる。

○長野県における併設型の成果や課題については、「第一期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理」という形で公表されている。成果としては、「広域から期待が寄せられる学校として定着している」や「異年齢集団の継続的な特別活動等により社会性や豊かな人間性が育成されている」などが挙げられている。課題としては「カリキュラム等の研究を深めて県民の期待に応えることが必要である」、「生徒が心身ともに充実した生活を送れるよう丁寧な対応が必要である」とある。

○併設型の中高一貫について、先ほどの「まとめと課題の整理」の中で、「少子化に歯止めがかからず、市町村立小中学校の統廃合が進められる中にある場合は、新たな県立中学校を設置することの影響は大きい。(中略)モデル校と同じ併設型の中高一貫校については、現行の2校体制が維持されることが適切である」とまとめられているが、連携型について検討していくことはいいのではないか。

<丸山委員>

○この議論は単位制とは別の話なのか。

<中島主幹指導主事>

○単位制とは生徒の学びの選択肢が増えることにつながる面もあるので、連携型中高一貫校にとっても単位制は有効に作用するのではないかと思う。

<白戸議長>

○続いて、全国募集WGの総括をお願いする。

<太田委員>

○多くの委員の方に、県外説明会に協力をいただいた。そこでは保護者や中学生から山岳、スキー、その他白馬高校への期待の声をたくさん聞くことができた。地元の保護者にもぜひお伝えして普通科の募集につなげたい。

<中村義明委員>

○生徒募集については一定の成果が出たのではないかと思う。県教委も高い評価をしてほしい。説明会には中学2年生や1年生も自分が進路を考える参考にしたと考えて参加してくれており、この募集活動をやった良かったと思っている。

○地元の生徒への働きかけについては、地元の中学校の授業参観や交流が成果をあげるのではと思う。これからも交流会などに力を入れるべきだ。

○美麻の交通の話にはハッとさせられた。これは相当大きな問題なので、白馬村長ともいろいろな点で知恵を絞っていかねばと思う。

<中島主幹指導主事>

○草本委員から山岳関係の話をもう少し詳しく聞かせてほしい。

<草本委員>

○アルパインエンジニアリングとしては、大学などと連携して、例えば山岳エリアの融雪をどうやったら環境に優しい形で取り組めるかとか、村の有用な資源である水を未来のためにどのように残していけばいいのかについて考えることになる。山岳エリアだからこそできることとか必要な技術について、たとえば、村内の河川水量の測定や放棄林を自然林に戻す取り組みなどを大学生と連携して取り組みたい。

<白戸議長>

○様々な大学でそうした取り組みがあり、企業でも技術開発も含めてもっとやっている。大学でも企業でもフィールドがあるかないかは大きいことなので、いまのお話は現実的な話といえる。

<草本委員>

○白馬高校からそれを目覚めて理系に進む生徒がでることを期待したい。

<関校長>

○もともと国際観光科のカリキュラムは私立文系型だったが、現行では理系も学べるように整えている。教科横断、文理横断型の学びもこれから増えていく。

<白戸議長>

○今は、理系文系と分けられない学際的な分野が増えていて、各大学も融合型の学部や学科をつくっている。世界的な課題であるSDGsを考えても、文理を融合したものの考え方が必要だ。幅広い学びをすることが将来にとってプラスになる。

<草本委員>

○いまは、例えば、高校でのエンジニアリングの学びの成果をつかって大学を受験できる。特に、海外大学だとポートフォリオで見る大学が増えているので、もちろん一定の英語力も必要だが、そうした学びを蓄積することで進学が可能になるのではないかと。海外の大学ではむしろ文理のくくりはない。

<白戸議長>

○日本の大学も文理融合型になってきているので、白馬高校としても今のカリキュラムをうまく活かして対応できるのではないかと。

<丸山委員>

○WGで入学者70人という目標を立てていたが、前期試験が終わったところで今後の志願の見通しはどうか。

<関校長>

○1月に県から発表された志願予定数調査の結果も見ているが、後期選抜でどのくらい志願があるかは不明だ。

<丸山委員>

○国際観光科前期選抜の募集定員を今より増やすことはできるか。

<関校長>

○県の規定の範囲内で増やすことはできる。実際、普通科で令和3年度まで16人募集だったところ

を翌年度から20人にしている。志望があれば、できるだけ前期選抜で確保したいとは考えている。

<丸山委員>

○今回の前期選抜で不合格になった受検生が後期にも志願するのか。

<関校長>

○地元県外とも、おそらく志願していただけたらと思う。

<丸山委員>

○今回、プロモーションビデオを制作して全国募集に使ったが、今度は普通科を集めるムービーが必要という考え方でいいのか。

<関校長>

○おっしゃる通り。コロナで落ち込んだ県外生の取り込みをどうするかというのがこれまでの課題で今年はいまよくいった。普通科の志願者が減っているのは、本校に限らず全県あるいは全国的な傾向でもある。普通科をめざす地元生を集めるために、中学生やそれに続く小学生にもアピールできるものが必要だ。

<柴田委員>

○以前、生徒からトイレの改修要望があったが、その後どうなったか。

○寮下宿が増えているが、寮に学校の目が必要だ。四国、中国地方の学校寮を見学したが、どこも学校の先生が宿直している。長野県ではどうか。

○スキーのエリートアカデミーの話はどうなったのか。

<中島主幹指導主事>

○トイレの改修は「そう遠くないところで」行われる予定になっている。

○寮の運営については、今行政も含めて検討中で、近いうちに考えを示すしたい。

<関校長>

○エリートアカデミーは学校にとっても興味ある取り組みだが、責任者からはスポンサー企業が現れず資金面で先へ進めない状況と聞いている。

<柴田委員>

○スキー部と同窓会のマイクロバスの老朽化問題について、県として援助のようなものはないか。

<中島主幹指導主事>

○ご要望として承っておく。

<白戸議長>

○今年度はWGを2つ作って取り組んできたが、成果も出て、また今後の課題もはっきりしてきた。県外募集については成果を出した一方、地元生募集については課題が残った。そのための学校の魅力化が来年度以降の大きな課題である。次年度第1回の協議会でさっそく議論したい。

(6) その他

<関校長>

○運営協議会の規則では委員の任期は2年で、現委員の任期は令和6年4月30日に満了となる。委員の任命は教育委員会の権限であるので、また相談させていただきたい。

<松澤委員>

○生徒が考案した「小谷漬けのシール」を配布した。数量限定だが、大糸線の存続と白馬高校のPRを兼ねて商品に貼らせてもらうことになっている。

<藤森教頭>

○学校外部評価についてのお願い。(略)

<白戸議長>

○最後に教育委員会の方からまとめをお願いする。

<中島主幹指導主事>

○白馬は、小学校や中学校さらにインターナショナルスクールなどとの連携もある素晴らしいところで、地域の方々もこうした学校の運営に参画いただきいろんな意見をお寄せいただいている。大自然を活かして、高校時代に何か一つやってみたいものが見つかる、学びも深まる。地域の方も気軽に学校に来て一緒に学んでもらえるようになればいい。今日はとても夢のある話ができたとと思う。県庁へ戻って白馬高校のことを話し、様々な面での協力を考えたい。委員の改選もあるが今後とも末永くご協力のほどをお願いしたい。

(7) 閉会<藤森教頭>

○新年度4月中に次の運営協議会を開催したい。日程はあらためて調整する。

○以上で第4回学校運営協議会を終了とする。